［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成20年7月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0770402444		
法人名	医療法人社団秀友会		
事業所名	グループホーム　サンファミリー		
所在地	福島県いわき市常磐藤原町大畑１３－１ （電 話）0246-72-1325		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	**H20.6.18**	評価確定日	**H20.7.25**

【情報提供票より】（20年5月25日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　１６年　　６月　１６日	
ユニット数	１ユニット	利用定員数計　　９　　人
職員数	９人	常勤7人，　非常勤2人，　常勤換算7.1人

（２）建物概要

建物構造	鉄骨　　造り
	２階建ての　　１階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	45,000　円		その他の経費(月額)	円
敷　　金	有（　　円）		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	350　円	昼食	350　円
	夕食	500　円	おやつ	200　円
	または1日当たり　　円			

（４）利用者の概要（7月7日現在　）

利用者人数	９名	男性	１名	女性	８名
要介護１	１　名	要介護２	３　名		
要介護３	３　名	要介護４	２　名		
要介護５		要支援２			
年齢　平均	84.8 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	いわき湯本病院、細島医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体施設である老人保健施設の敷地内にあり、グループホームの特性である、地域密着性や家族的な運営を、高齢者介護、認知症介護について豊富な経験を持つ管理者はじめベテランの職員により行われている。利用者個々の特性を理解した上で、職員のチームワークにより上手に個別対応をしており、利用者は生き生きとした表情で生活している。戸外へ出ることにも積極的であり、利用者の閉塞感が緩和され、それも利用者の表情に反映されている。介護職員に栄養士資格所持者がおり、食事の準備から片付けまで、食事に関わることが利用者の楽しみとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	運営推進会議について、前回の評価の際は年１回のみの開催だったが、現在は２ケ月に１回開催しており、利用者に関する報告及び地域に密着したサービスの展開について話し合っている。重度化、終末期ケアについての指針は整備途中であるが、利用者の重度化に伴う個々の方針について共有をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	サービス評価の意義や目的について全職員に伝え、自己評価を全員で行い、サービスの向上に取組んでいる。また、外部評価の結果について全員で話し合う機会を設け、取組みやすいものから改善計画を立て具体的な検討を行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	家族、地域代表、行政担当者、母体施設担当者及びホーム担当者をメンバーとして２ケ月に１回開催している。利用者の状況報告や外部評価の結果、管理者会議や検討会の報告、ホームの懸案事項についてメンバーがそれぞれの立場から率直な意見が出されている。また利用者サービスの質の向上につながるよう、会議に連続性、継続性を大切にしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	相談、苦情の窓口を決めている他、玄関先にご意見箱を設置している。家族へは、葉書で意見等を求めたり、面会時や電話にて話を伺うようにしている。また、意見などを出しやすい雰囲気作りのため、家族と職員でのお茶のみなどをするようにしている。出された意見などについては、記録・協議し、運営に反映できるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	幼稚園とのふれあい会、地域の学校の運動会や学習発表会への招待などの行事へは積極的に参加するようにしている。また、運営推進会議のメンバーを通して、地域との交流を図っている。

２．　評　価　結　果（詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一員として、グループホームの役割りを職員全員で考え、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念とその内容について理解しており、毎月の介護内容の検討会議等において理念に触れ、確認しあいながらその実践に向け取組むようにしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 　事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する母体施設とは別に、ホームが地域の一員として交流できるよう、地域の祭り、運動会、文化祭、あるいは学校、幼稚園の行事などへ利用者と職員が積極的に参加するように努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 　運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、それを通して気づき等を利用者へのサービスに結びつくようにしている。また、外部評価の結果について職員全員で話し合う機会を設け、取組みやすいものから改善計画を立て実践している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、地域代表、行政担当者、母体施設担当者及びホーム担当者が構成メンバーになっており、利用者サービスについて、あるいは外部評価結果、管理者会議等を報告すると共に、率直な意見をいただき利用者のサービス向上に活かすようにしている。	○	運営推進会議の会議録を毎回作成し、その協議内容を継続的に活かし、利用者のサービス向上に結びつくようにして欲しい。
6	9				
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の様子を担当職員が所定の書式に記入し、写真を添え家族に送付している。金銭管理については、出納帳のコピーを家族へ送付している。（利用者と職員が一緒に金銭出納帳を確認する場合もある）ホーム全体のことについては、管理者が通知文を作成し送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の窓口を決めている他、意見箱の設置、葉書で意見伺うなど実施している。また、電話や面会時の話、相談などを記録し、運営に反映できるようにしている。家族の話しやすい雰囲気作りのため、家族と職員がお茶のみなどができるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職は最小限にとどめており、ホーム開所以来離職はほとんどない。新しい職員の異動に際しては、異動した職員の年齢に合わせたり、日勤業務を連続して行うことで、利用者と顔なじみの関係を築くように工夫している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員のレベルにあった研修を受講させており、研修参加後の報告会を実施している。内部研修は、担当を職員の持ち回りとして、毎月実施している。また、母体施設の研修会にも参加するなど、職員のレベル向上に努めている。	○	さらに、年間研修計画を作成するとともに、研修参加記録を充実させ、職員を計画的に育成する取り組みを充実してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び市のグループホーム連絡協議会に加入しており、また、主に管理者間にて情報交換を行っている。また、他事業者との研修会、情報交換会を計画しているところである。	○	現在進めている管理者以外の職員も参加する他事業所との情報交換会を実現し、交流を通じて互いにサービスの向上が図れるようにして欲しい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のペースで過ごしており、洗濯や掃除、畑の世話など生活上の作業を自然に職員と利用者が共同で作業している。会話を含め、共に支えあう関係が出来ている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の表情や言葉から、利用者の意向や希望を把握するよう努めている。また、家族の希望や職員が気になることなどを毎月とりまとめ、介護内容の評価を行っている。	○	認知症介護研究・研修東京センター方式による介護内容の評価の実施、あるいは生活暦に関する介護内容の評価を充実させるなどにより、より利用者の理解を深め、利用者の暮らし方の希望に添ったサービスが提供できるよう取組んで欲しい。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月、利用者のニーズ調査票に利用者及び家族の希望を伺ったものを記録し、介護内容の評価、経過観察に活かしており、それを基に協議し、介護計画を作成している。	○	調査票など細かく記録されているが、生活の記録が介護計画に基づくものとはなっていないため、記録の内容や方法などについて整理し、介護計画作成に活かせるようにして欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合には、その時点で介護計画を作成している。また、毎月一度は利用者及び家族の要望を把握、利用者の状況や介護計画の実施状況と照らし合わせ、プランの見直しをしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医をホーム入居前からの主治医とする利用者とホームの協力医とする利用者がおり、利用者と家族の希望、必要性に応じて納得の得られる医師を受診している。通院は家族の協力を得ることもあるが、定期的な受診についてはホームにて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期について、その都度利用者や家族へ説明し、納得されるよう話し合いを持っている。入居時に、事業所で対応できる範囲について「家庭でできる介護の範囲」と説明し、同意を得ているが、その後ホームと家族の認識が違ってくる場合がある。	○	口頭での説明により、認識の違いが生じないように、あらかじめ、ホームとして重度化や終末期に向けた方針を文書化し、それを基に利用者や家族、主治医と話し合い方針を共有してほしい。話し合いの方向も整備してほしい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーへの配慮については、さりげない声かけなど、利用者の尊厳を傷つけることのないよう行っている。個人情報保護については、法施行時に研修を実施し、職員に周知したが、事業所として規程が整備されていない。	○	利用者の個人情報保護に関する規程を作成し、研修を行い職員に周知を図ってほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日あるいは一週間の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調やその日、その時の気持ちに留意し、個別性のある支援を行っている。リハビリに行く方、畑作業を行う方、自室で過ごす方など、それぞれ様々な過ごし方をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介護職員の中に、栄養士資格所持者がおり、栄養バランスの取れた献立は勿論、利用者参加による買い物や、調理などで献立の変更にも柔軟に対応している。食事中の会話や片付けなど利用者と職員が一緒に行って、食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の希望に応じて対応している。また、入浴剤を変えたり、歌を歌ったり、入浴が楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	漬物、園芸、畑仕事、裁縫などの利用者の経験が発揮できるような場面を作り、楽しい日々が過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者の希望に対応し、広い敷地内での散歩や畑の世話、戸外での遊びの他、スーパーへの食材の買出し、近所の菓子店への買い物、四季のドライブなど日常的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関やその他のドアに鍵は掛けず、さりげない声かけ、散歩の付き添い、後方からの見守りなど、安全でできる限り自由に過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する母体施設と合同で、避難訓練を実施しており、災害等緊急時には母体施設の支援を受けられる体制ができている。また、運営推進会議にて災害時の協力体制を呼びかけている。	○	さらに、利用者の特性を考慮し利用者がスムーズに非難できるようホーム独自の避難訓練を実施してほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取について毎食後に確認を行い、職員がその内容を共有している。栄養士による献立で栄養バランスを確認しており、献立変更時にも全体的なバランスを見ている。また、嚥下,咀嚼など食事摂取能力が低下した利用者についても工夫して食事が進むよう支援している	○	利用者の食事、水分摂取及びバイタルチェックなどの、記録が別々の記録となっているので、一人の利用者について一目に分かるよう工夫してほしい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建築設計上、廊下やホールが暗くなってしまうため、暗くならないよう照明を消さないようにするとともに、季節の花や飾りつけを利用者と行う他、音楽を静かに流すなど、利用者にとって居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、自宅で使用していた馴染みの箪笥、机、布団などを持ち込んでいただくほか、写真や位牌など利用者にとって大切な物の持込により、その人らしい居室となるよう工夫している。		

※ ▒ は、重点項目。

３　評価結果に対する事業所の意見

事業所名　　グループホーム　サンファミリー

記入担当者名　　佐川　友恵

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。